モデル事業名	耕作放棄水田の維持管理と有効活用および自然公園の整備事業
活動団体名	滝寺まちづくり協議会、滝寺町内会、滝寺農区・農家組合
ホームページ	http://（活動団体のＨＰのアドレス）
所属／担当者名	上野　弘（滝寺まちづくり協議会）
連絡先	０２５－５２４－２８７０、ikarashi@y7.dion.ne.jp
活動地域	新潟県上越市大字滝寺

●　活動地域の概要

- **当地区**　：　古くからの農村地帯。中山間地域に位置づけられている。
- **町　内**　：　260 世帯。旧村と 2 つの飛び地となる団地（それぞれ自治組織で運営）を抱えている。
- **旧村となる集落**　：　かつて 200 世帯を上まわっていたが、現在は 88 世帯である。世帯数の減少と少子高齢化のため農村の機能は低下し、手入れのできない山林はもとより耕作放棄の水田や畑が非常に多く存在する。
- **当地区の概況**　：　ミズバショウや絶滅危惧種のオオニガナの自生地があり、里山公園として上越市民から長く親しまれてきている愛の風公園がある。また、町内で守り続けてきている上杉謙信公ゆかりの毘沙門堂や、広く信仰の対象として守り継がれてきた滝寺不動尊もある。また、当町内の氏神様としての諏訪神社は町民全員が氏子であり 8 月 27 日の例大祭には神楽が奉納され、青年会や自治会が担当する出店が出され賑やかである。
- **滝寺まちづくり協議会**　：　平成 5 年に町内の自主的ボランテイア組織として結成された。2 つの団地住民も自然保護・伝統文化の保護に積極的であり、「滝寺まちづくり協議会」に積極的に参加し、ミズバショウや絶滅危惧種オオニガナ自生地の保護・愛の風公園の再生・管理活動を行っている。
- **町内と協議会の関係**　：　町内会は協議会発足以来年間 30 万円の活動助成を行い、その活動を支援してきている。

【位置図】　左：新潟県での位置　　右：【町民とまちづくり協議会が管理してきた愛の風公園】
中央：【耕作放棄水田：滝寺集落開発センターが見える】

●　活動地域の課題

- 農家の高齢化と高後継者不足のため休耕田が多数出現してきており、耕作放棄された田は原野化し始めているところも多数見受けられる。休耕田が原野化しないよう維持管理を工夫する必要がある。
- 自然や伝統文化も当地区の農区・農家組合が主体となって守り継いできたものであるが、農家の後継者が激減している今、農家にだけ頼っていては維持管理が困難となった。非農家もバックアップできる体制作りが必要である。
- 今までに行なってきたミズバショウ自生地の保護・愛の風公園の整備維持管理・毘沙門堂維持管理・里山の維持管理や赤道の管理・市委託のふるさと道の管理等を、町内会・農区農家組合・まちづくり協議会が協力して行う体制作りが急務である。
- 少子化の影響で子供への文化伝承ができにくくなっている。子供会を中心に町内一丸となって次世代を担う人づくりを行わねばならない。合わせて、地域コミュニテイーの活性化を図る必要がある。

●　活動の内容

1、耕作放棄水田・休耕田の有効活用について	2、自然公園の整備について
①休耕田での稲作体験　②休耕田での野菜づくり体験　③耕作放棄水田へのミズバショウ移植活動　④ビオトープでのミズバショウ育苗活動　⑤ビオトープでの自然観察会や生物調査の実施　⑥耕作放棄水田や休耕田の有効活用についての検討会の実施	①毘沙門堂参道の石段修復　②愛の風公園からビオトープまでの遊歩道整備　③ビオトープの保全管理　④水場の整備　⑤愛の風公園を活用した町民お楽しみ会の実施　⑥散策路や史跡のマップ作り　⑦町内運動公園の整備　⑧古道（赤道）の整備
3、その他　①花いっぱい運動の推進（自治会・老人会の活発化）　②まちづくり活動通信「やまぼうしの発行」	

（直近１年間の進捗など）

○　昨年度は、耕作放棄水田をビオトープ化したことや赤道復活、毘沙門堂石段修復、信州大学土井教授の「信大ふるさと農場」での子供の農業体験の効果についての講演会、長谷川元上越教育大教授の里山の重要性についての講演会、ホタルロード・ミズバショウロードの整備などを行った。

○　この結果今年度は、子供会より上記１-①②が提案され、まちづくり協議会が水田の貸借、田植えの準備・指導、稲刈りの指導と手伝い、はさ作り、脱穀などに協力した。成果物については、納涼会でのつまみ（枝豆）、諏訪神社例大祭での販売、奉仕活動のおやつ（焼き芋）、小正月行事での餅つきなど町民との交流に活用されている。
○　ビオトープには絶滅危惧種アギナシや希少種のキクモ・ミズユキノシタも繁殖している。さらにはコオイムシやミズカマキリはもちろんゲンゴロウまでが戻ってきた。個体数は少なかったがモリアオガエルも見られた。
○　まちづくり協議会員や町内会役員からは２－④⑤⑦と３－①の新たな提案が出され、今年度の活動に加えた。
○　今年度は上越市地域活動支援事業に応募し助成金（339 万円）をいただいたので、活動にさらに弾みがついた。２－①②は業者委託で実施することになった。

●　活動の成果

○子供会と協議会との連携・協働が円滑に行われた。新たな発案が精力的に実施され形をなしつつある。

左から：「稲刈り作業」「愛の風公園でのキノコお楽しみ会の同定風景」「子供会芋ほり活動」「町民ボランテイアによるグランド斜面への花苗移植作業（この日に子供会の成果物である焼き芋が、子供会により参加者に振る舞われた。）」

左：「町民グランド整備活動」

右：「町民グランド完成記念第一回ソフトボール大会」
※地域行事との重なりが多く、2 チームでの大会となった。

・直近１年間の成果など（活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入）
○　子供会の活動が町民の評価を受け、子供会の活動が活発化するとともに町民に受け入れられ、必要な活動になった。
○　農区・農家組合とまちづくり協議会の活動の役割分担が次第に明確になりつつあり、協働が円滑になってきた。
○　飯小学校の教育活動に当地域が活用され、先生方や児童が当地域の自然に対し関心を高めている。
○　古くからの町民が里山の大切さに気付き始め、自分たちが維持管理してきた自然環境も素晴らしさに目を向け始めた。愛の風公園を中心に散策する姿を多く見かける。

左：ホタルの幼虫探し事前調査
中央：文化祭で飯小学校３年生が、総合学習の成果「ホタルの一生」を劇にして発表
右：文化祭での展示「大瀬川の生き物たち」

●　今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）
○　月１回の定例活動日を設けて半日の活動を行っているが、イベント行事が多くなるに従って多忙感を感じるようになってきている。活動を楽しむゆとりをもった年間を見通した計画性が求められている。
○　「やまぼうし」を情報源として飯小学校の総合学習（ホタルの学習）に当地域を活用していただいた。今年度の活動をもとに、学校とまちづくり協議会・町内会が連携して、学校の活動により利用しやすい自然や人的環境づくりを進める必要がある。

・展望（今後の取組みや検討について記入）
○　遊歩道ができ、そのルートに湧水が豊富なことからバイカモの移植・増殖を計画している。また、ビオトープの景観の向上・利活用も話題になるようになった。さらには、里山の伐採木の菌床としての利活用とキノコお楽しみ会のリンクも上がってきた。これらの活動を協議会の組織化と役割分担で拡大していくことが求められている。
○　町民グランドでのソフトボール大会への参加を近隣町民に呼びかけ、より広い範囲の人たちとの交流を行う。
○　看板等の設置・パンフレット作成などを行いより多くの人が活用しやすい環境を整えていくことも課題である。

●　その他（自由記述）